

第9回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策専門家会議・議事概要

日時：令和2年7月27日（月）19時～21時

場所：沖縄県医師会館3階ホール

議題1 県内の新型コロナウイルス感染症患者の発生状況について

〈説明〉

- 発病日については、7月14日からの1週間に集中している。
- 米軍基地については、キャンプハンセン、普天間基地が突出している。
- 感染については、県民・帰省客の持ち込み、観光客の持ち込みをきっかけに、家族内感染、職場内感染が起きている。米軍からの感染疑いもある。また、夜の街での感染が出ており、同じ店から複数出ているところもある。

- 1 一気に患者が増えた。観光客・帰省客の持ち込みは4月と同じだが、今回は、米軍基地、コールセンター、介護施設などの注意が必要。
- 2 陽性と判定された介護従事者が仕事をしていた施設を確認したが、やはり施設の看護師への教育が必要と強く感じた。
- 3 那覇市の夜の街関連については、早急に詰めていくべき。
- 4 重症例を見ると、決してコロナが弱毒化しているものではないというのが、大事なポイント。直感的な感じだが、これは抑えようがなく、かなり広がりそうな印象。
- 5 かなり市中感染が広がっている。昨日もふらっと救急に来た患者が、今日、陽性が判明している。行動歴では、4日前に国際通りの居酒屋で飲んだだけしかひっかからない。流行が広がっている印象。
- 6 この数日は、若い女性とその子どもが感染しているのが目立つ。
- 7 松山でPCR検査をやったら多数出ると思う。これだけ出たら、患者の振り分けは大変ではないか。
- 8 こんなに早く増えるとは思っていなかった。四連休だったこともあり、各病院の病床確保が難しく、四苦八苦している。宿泊施設もGoToトラベルの影響で予約が入っていることから、なかなか確保できていない。
- 9 現在の受入患者数は、第1波の時のピーク時の人数を超えているが、軽症者が多いことから、厳しさとして第1波のピークを越えていると言われるとちょっと違う。
- 10 早く軽症者をホテルに移せば良いと思う。
- 11 これまでは確定症例と疑い症例をゾーニングして分けて入れていたが、今回の国の考え方では、確定病床は1病棟開けることとなっており、疑い症例は別の病棟に入れれないといけないこととなっている。
- 12 那覇市のPCRセンターについては、常設のPCRセンターを8月3日から開設予

定としている。最初は、月・水・金からの開始予定。場所については、8月いっぱい那覇のバースで調整している。

- 13 (那覇市): 全庁体制で対応。市の本庁を含めた保健師(60人)に積極的疫学調査の研修を行っているが、それぞれ業務をもっているため、それを置いて対応してもらっている。

議題2 新型コロナウイルス感染症の相談及び検査体制について

- 1 いろんなところで検査が出来るのはよいが、クオリティの問題がある。実際に、濃厚接触者が一度目の検査で陰性だったが、後に陽性となっている事例もある。検体の取り方をきちっと説明していく必要がある。
- 2 小規模離島の診療所における抗原検査のキットの配備について検討してほしい。
- 3 県立病院については、親病院とは契約しているので、委任状を出せば診療所でも検査可能。
- 4 PCR 検査の実施を推奨する対象者について、状況が変わっており、5月、6月と夏休みで同じ対応は難しいと思う。走らせながら対応を検討していけばよいのでは。

議題3 病床及び宿泊療養施設の確保状況について

- 1 沖縄の場合は重点医療機関が多く、疑い患者受入協力医療機関はほぼない。国の考え方は、現実的ではない。
- 2 看護単位を分けないといけないことから、重点医療機関のハードルが高い。
- 3 ホテルがオープンしたら速やかに連絡してほしい。
- 4 ホテル療養の問題点として、看護師の不足が問題。
- 5 フェーズの考え方について、公衆衛生上の県民に呼びかける部分と医療提供体制整備の考え方を分ける必要がある。公衆衛生上のことから言えば、専門家会議として流行が始まっていると県民に明確にしてよいと考える。疫学情報の評価として、感染経路が不明の症例が増えてきている、つまり、流行が拡大する入り口に立っている。そして、高齢者の感染事例、介護従事者の感染事例もあることから、重症者が多発するリスクが増えてきているということも県民に伝えていく必要がある。その上で、市民に対する不要不急の外出自粛の要請、離島などへの渡航自粛を求めていくべきではないか、つまり第3段階という見解を求められるわけだが、県全体として求められる状況ではないと考える。医療圏別で考えると、南部から中部に集中していて、北部、宮古、八重山では認められていないことから考えると、県全体としての流行ではなく、地域的な流行が始まっている。特に重要なのは、那覇の夜の街に休業要請をかけるか。新宿のような中途半端な対応では、いつまでも流行は続く。聞いた話では、那覇が開いていることで、東京から

働く人が流れている。外出自粛や渡航自粛をかける段階に入っていると思うが、どの範囲でかけるのか、漠然と第3段階を県民に警告するよりは、もっとピンポイントに対策をとって、県民生活への影響を少なくするようにしていく必要がある。

- 6 大事なのは、中部、南部がフェーズ 3A に入っていること、医療体制は逼迫していないとは言えないということ。
- 7 宿泊施設の間と人の確保が難しくなると、自宅療養というカードを切らないといけないのでは。
- 8 一旦、入院して問題がない人をホテルにという今までのやり方が出来ればいいが。
- 9 ホテルでの看護業務はオンラインで出来ることが多いので、オンライン化ができれば、ホテルの外で看護師が出来るが増える。
- 10 医療機関としては、一日でも早くホテルが開いてほしいのが、正直なところ。
- 11 重点医療機関のあり方については、厚労省にしっかり要望してほしい。

最後に

- 1 公表については、地域名は出した方がよい。また、有症者が出歩いている例があるので、絶対控えるようにメッセージを出すべき。
- 2 厚生労働省が公表に関する事務連絡を出している。不特定多数の者と接することが起きた場所は公表する。
- 3 地域名でとどめていただきたい。店名を出すと、誰も協力しなくなる。
- 4 最初は、軍からと考えていたが、夜の街の傾向が強くなっているので、対策を強化しないと止められないのではないかと。
- 5 今、県庁の保健医療部の体制を強化してほしい。専門家会議のコメントとして出してほしい。命の方が最優先。